第 593 回：おすすめの情報収集術（MS）

みなさんお久しぶりです、火曜日担当の MS です。夏季休暇はいかがお過ごしでしたか？私は諸事情で何度も泉州に行く機会があったので、名産の水ナスをたくさん食べることができました。生で食べるのが一番おいしいです。他にも、関心のある学会や研究会に参加して最新鋭の研究に触れる機会もあり、充実した夏季休暇だったと思います。

さて、今回のトピックですが、「おすすめの情報収集術」と題して、国立国会図書館（NDL）が提供するサービスの一つである、「国立国会図書館デジタル化資料送信サービス」をご紹介します。

これを選んだ理由ですが、8月に国立国語研究所の「言語資源ワークショップ 2025」に参加して、NDL のデジタル化計画、とくに画像を自動で文字起こしする技術と言語学への応用に関する招待講演を聞いたのがきっかけです（[詳細はこちら（外部サイト）](#)）。具体的にどのようなサービスかということですが、著作権が切れていたり、入手が困難だったりする資料を閲覧できるものとなっています。とくに、一次資料として古文書を読む必要のある文献学・民俗学・言語学の研究者や、入手が困難な雑誌を閲覧することに関心のある人にとってはこの上なく重宝するサービスだと思います。詳しくは[こちら](#)をご覧ください。また、NDL サーチの利用については[こちら（外部サイト）](#)をご覧ください。

どこで使えるかということですが、一つの方法としては外大の図書館があります。また、デジタル化された文献資料のみならず、歴史的な音声記録についても調査できます。

それに加えて、2022 年から個人の利用者登録をすることで、「個人向けデジタル化資料送信サービス」という形で、自分の端末上で当該資料の閲覧ができるようにもなりました（[詳細はこちら（外部サイト）](#)）。注意したいのは、利用に際して簡易登録と本登録の両方が必要で（無料）、本登録については本人確認書類の提示が必要になることです。さらに、本登録がされるまでの時間も数日から1週間程度かかるので、それを見越した登録が望ましいです。[詳細はこちら（外部サイト）](#)をご覧ください。

今回の LA 通信は以上となります。寒暖差の激しい季節になってきていますので、皆さん体調にはお気をつけてお過ごしください。それでは。